

●今日の声かけ いきいき未来●

# 愛育

NO. 49  
2025

発行／令和7年3月30日  
編集発行／社会福祉法人  
恩賜財団母子愛育会愛育推進部  
〒106-8580  
東京都港区南麻布5-6-8  
TEL 03-3473-8315  
URL <http://www.boshiaaikukai.jp/>



## 第56回愛育班員全国大会



大会式典の様子

令和6年4月12日に明治記念館を会場に第56回愛育班員全国大会を開催。

全国大会での模範愛育班指定書の授与

## 第60回育成者研修会

山梨県愛育連合会が、模範愛育班の指定を受け、7月22日に育成者研修会を開催し、参加した保健師に愛育班の歴史や愛育班組織育成の役割を学ぶ機会を提供しました。



源母子愛育会館研修風景



矢崎きみよ像の前で

## 特集 第56回愛育班員全国大会



令和6年4月12日（金）に開催された式典では、総裁秋篠宮皇嗣妃殿下から「おことば」を賜りました。平成24年に源母子愛育会館を訪ねられた際に出会った矢崎きみよさんの「愛育のこころ」の中から「どんなことをするときにも人の和が大切です。」の一節をご紹介され、若い世代に人の和が繋がっていくことを願われました。（おことば全文は、当会HPでご覧いただけます。）

### ～会長表彰受賞者～

### ～総裁表彰受賞団体～

川棚町母子愛育班連合会

### ～喜びの声～

川棚町愛育会は設立50年を迎えます。これまでの道のりを築いてくださった諸先輩方や、班員みんなで支え合いながら取り組んできたことが評価されたことに、嬉しさと誇りを感じ、深い感動を覚えました。喜びを胸に壇上にあがった瞬間、胸が熱くなり足が震えました。

今回のこの賞を糧にし、私一人の力では小さくとも、これからも班員のみんなとともに愛育活動を続けて「愛育の灯」を灯し続けていきたいと思えます。



川棚町母子愛育班連合会

### 班員

村田 朝子（ときがわ町愛育班）  
 植竹 公子（加須市母子愛育連合会）  
 濱田 明美（杉戸町母子愛育会）  
 高橋 良江（こしがや母子愛育会）  
 大井川芳江（上尾市母子愛育会）  
 山口 操子（大月市愛育会）  
 鷹野 利美（中央市愛育会）  
 齋藤 光江（富士川町愛育会）  
 矢崎 清香（菰崎市愛育会）  
 小林 栄子（さんだ愛育班）  
 三浦 淳子（太子町亀田地区愛育班）  
 小川 敦子（笠岡市愛育委員協議会）  
 今井千鶴子（琴平町母子愛育会）  
 今村 かや（豊後大野市愛育会）  
 佐々木雄二（玖珠町愛育健康づくり推進協議会）

### 育成者

長島 雅江（上野原市役所）  
 有馬 聖子（洲本市役所）  
 坂上 智美（岡山市保健所）  
 平田 敦子（岡山県美作保健所）  
 瀧口 広子（宇佐市役所）

### 団体

山中女性会愛育部（山梨県）  
 丹波市愛育会（兵庫県）  
 竹田市愛育保健推進員会（大分県）

### ～喜びの声～

母子愛育会埼玉県支部（班員5名）

村田さん

ふれあい交流事業の参加者からお祝いの言葉や、「愛育班頑張った」と励ましを沢山頂き、愛育班の評価が高まったことを肌で感じました

植竹さん

加須市広報に載り市長を表敬訪問しました

高橋さん

市民の皆様へ受賞の報告が出来たことで活動を理解していただき協力を申し出ていただきました

濱田さん

広報杉戸に掲載され、町長より受賞のお祝いの言葉をいただきました

大井川さん

活動を共にした仲間達と静かに喜び絆が深まりました

特に妃殿下とお話できたことは貴重な体験でした。普段の活動の報告に労いのお言葉をいただき、優しい笑顔の中に私たちを見守ってくださるお気持ちを感じられ、緊張の中でもとてもうれしく幸せな時間でした。今回の受賞をスタートと考え、私たちの地道な活動で一人でも多くの方の心が温かくなるよう、笑顔になってもらえることを願いながら愛育班活動を続けたいと思えます。

～喜びの声～

山梨県愛育連合会

(班員4名、育成者1名、1団体)



山口さん



鷹野さん



齋藤さん



矢崎さん



長島さん

山中女性会愛育部

全国大会で栄えある表彰に預かり、保健師さんと共に町長に受賞の報告に伺いました。町の愛育会活動に対して理解と暖かい労いのお言葉を頂きました。町の広報誌にも受賞記事が掲載され、愛育会の広報活動になりました。町内の方々大勢からお声掛けを頂き、その都度、私からは「愛育会活動には奉仕できる喜びがあります。」と話すことができました。

また、今年山梨県の地元の新聞にこの全国大会の受賞者がそれぞれ紹介されました。「顔」という欄で、顔写真に合わせて活動の内容や人となりの紹介記事です。新聞報道の力は恐るべし。その朝は6時前から早速電話が鳴り、それからしばらくの間県内各地の方々から次々と連絡が入り、それぞれに本当に暖かいことばを頂きました。

かつて、幼な子を育てていた自分が、愛育会の皆様から励まされ支えられたことを感謝に思うからこそ、今度は自分がそれをしたいと思い参加したのです。始めて20年余り育成者の方々に導かれ仲間にも恵まれ、地域の方々のご協力に支えられて今があります。この先も「他者の役に立てることこそ大きな喜び」という愛育の心を共有できる方々と活動を続けていけるようにと願います。(代表 齋藤)

兵庫県愛育連合会 (班員2名、育成者1名、1団体)



小林さん



三浦さん

丹波市愛育会

秋篠宮皇嗣妃殿下との歓談では、平成30年に丹波市にご視察にお越しになられ、県内愛育活動を聴取された時の事を覚えて下さったことに感激しました。にこやかに頷きながら聞いて下さり、最後には、「頑張ってくださいね。皆さんによろしくお伝えください。」と励ましのお声をかけて頂き、胸があつくなりました。このような機会を頂きましたことに感謝し、今後も皆さんに支えて頂きながら、愛育班の灯りを灯し続けられるよう精進していきたいと思っております。有難うございました。



有馬さん

秋篠宮皇嗣妃殿下との歓談では、「保健師さんの活動にはいつも尊敬しております。」とお声かけを頂き、感銘を受けました。このような機会を頂きましたことに感謝し、今後も愛育班員の皆様と共に、地域の支えとなるよう歩み続けていきたいと思っております。

岡山県愛育委員連合会 (班員1名、育成者2名)



小川さん

身に余る賞をいただき恐縮しています。私自身も高齢になり、活動がいつまでできるかを感じる日々です。最近では地域が希薄になり、後継者を見つけることも苦慮していますが、今できる活動を行っていかうと思っております。



平田さん

愛育委員の魅力発信と活動伝承の大切さを再認識しました。総裁秋篠宮皇嗣妃殿下との歓談では「保健師さんコロナ対応大変でしたね。」と労いのお言葉を賜り、感慨無量でした。

これまで、愛育委員とともに時代に合った活動を考え、積み重ねてきた結果の受賞だと思います。今後も、両輪となり地域の健康づくりを推進できるように、次へつないでいきたいと思っております。ありがとうございました。



坂上さん

香川県母子愛育連合会

(班員1名)



今井さん

全国大会では、総裁とご歓談に参加し、総裁から受賞を祝福していただきました。懇談後は受賞者の方と「感動した」「励みになった」とお互いに喜びを分かち合いました。「愛育のこころ」が末長く受け継がれることを願うと語られた総裁のおことばを胸に、これからも自分のできることで頑張っていこうと思えました。

母子愛育会大分県支部 (班員2名、育成者1名、1団体)



今村さん



瀧口さん

竹田市愛育保健推進会

愛育班員全国大会で、母子愛育会会長表彰を受賞しました。これまでの愛育活動に対する皆さまと共に歩んだ努力と成果への大きな励みとなりました。

「愛育の心」を途絶えさせないよう、市民が安心して暮らせる地域づくりや地域のつながりが深まるよう、愛育会の活動を支援してまいります



佐々木さん

愛育の心としての声かけ・見守り等はもちろんのこと、日頃からの健康づくり活動に対して受賞することができたこと、また全国各地の愛育班の地道な活動をたくさん学ぶことができ、改めて健康づくりへの意欲が湧いてきました

今回の受賞は、多年にわたり指導されてきた先輩の方々、あるいは現在も一緒に活動をして頂いている愛育保健推進員の皆さんなど、関係する多くの皆さん方の活動の成果だと考えています。

## 「愛育班員の手記」入選者

日々、活動を通じて人と人の交流や、地域を繋ぐ役割の尊さなど様々な体験を手記にいただきました。どの手記も心熱くなるものばかりでしたが、厳正な審査の結果3名の方が入選し、第56回愛育班員全国大会で表彰されました！

優秀作	わたしの生涯の宝物	佐藤千津子 (岡山県)
佳作	有事に生きる平時からの顔の見える関係 愛育活動に出会えてよかった 健康は「キョウヨウ」と「キョウイク」	大久保 香 (山梨県) 池上 展子 (岡山県) 宿利 忠明 (大分県)



手記を朗読する佐藤さん

## 愛育・地域づくり活動交流会 (2024年11月21日)

健やか親子21全国大会 (鹿児島県) 会場の宝山ホール第3会議室と、全国18か所をWEBでつなぎ、多くの愛育班員、育成者の皆様が参加して活動交流会を行いました。活動報告していただいた班の概要を紹介します。

### 長崎県川棚町愛育会

令和6年度3地区愛育班、連合会を解散し一つの愛育会へ組織変更。①声かけ訪問、②班員会、③分班ごとに特徴ある活動、④育児相談や乳幼児健診など母子保健事業や健康増進事業への協力、そして⑤会全体での活動では、「三世代おたっしゅランド」への初挑戦を報告。



### 兵庫県香美町愛育会

令和5年度班員45名でナント8,709件の声かけ活動を達成！「愛育だより」を毎月作成して声かけ訪問で届けます。「孫育て・子育て交流会」で子育て支援、地区ごとの健康づくり事業など、人と地域のつながりを大切に活動しています。



### 山梨県愛育連合会

山梨県は4つの保健所管内地区と甲府市 (中核市) の5つの連合会で県連合会を形成し21市町村に愛育班があります。愛育会は、地域の人々の健康づくりを目的に、「声かけ」「見守り」「話し合い学習」、市町村との「協働活動」などを行っています。

県と愛育連合会が主催する山梨県愛育大会では功労者の表彰や講演を行い、モザンピック国来県時に愛育会活動の紹介などを行いました。



### 福井県鯖江市愛育会

鯖江市内12地区すべてに愛育班を組織し、母子保健や健康づくり、地域貢献に取り組む60年以上の歴史があります。「し・あ・わ・せ体操」の普及啓発、**愛ちゃん**、**育ちゃん**、**会ちゃん**の赤ちゃん人形の抱っこ体験など子どもから大人までの健康づくり活動に取り組んでいます。



愛育班の特徴である声かけ、人々とのつながりを大切にしたいイベント開催など多くの学びがありました。鯖江市の「し・あ・わ・せ体操」の実演も素敵でした！

健やか親子21  
シンボルマーク



## 健やか親子21全国大会

2024年11月21～22日の2日間にわたり「未来へつなごう！～“子は宝”すべての子ども健やかに育つ未来を目指して～」をテーマに開催されました。

### 祝！ 健やか親子21 内閣特命担当大臣表彰

岡山県	矢掛町愛育委員会
大分県	豊後大野市愛育会
山梨県	北杜市母子愛育会
兵庫県香美町	沼田 朋子 (育成者 保健師)

### 祝！ 母子愛育会会長表彰

(※現在、過去において愛育班育成者の経験ありの方をご紹介)

栃木県足利市役所	吉澤佐知子 (育成者 保健師)
兵庫県佐用町役場	木村 昌子 (育成者 保健師)
兵庫県豊岡市役所	村尾 恵美 (育成者 保健師)
香川県観音寺市役所	安藤登誉子 (育成者 保健師)
大分県中部保健所	坪根亀代子 (育成者 保健師)
さいたま市中央区役所	山口 優子 (育成者 保健師)

## 山梨県を訪ねて

### 皆さまの愛育班活動

母子愛育会総裁  
秋篠宮紀子

寒さも少しずつ和らぎ、木の芽吹きに春の訪れを感じる季節になりました。いかがお過ごしでしょうか。

今年の二月十二日、山梨県を訪ね、山梨県愛育連合会の皆さまや保健師の方々ははじめ、子育て支援に関わる皆さまとお会いしました。

山梨県愛育連合会は、令和七年三月に設立六十周年を迎えます。子どもや家族を取り巻く環境が変化している中、保健師をはじめ自治体の関係者と力を合わせ、支援を必要とする人々に寄り添った活動を続けてこられました。近年は、市のアプリを活用して子育てサークルの情報を届け、参加者を増やしたり、多くが高齢になってきた班員の意見を尊重したりしながら、保健師と共に取り組みやすくする工夫をされていると伺いました。

中央市子育て支援センターでは、愛育班の方たちが同センターと共同で企画したBabyサロンが開催されていました。ここでは、生後6か



ブルームス「子守歌」のハンドベルの演奏に誘われて

月から3歳までの子どもと母親がハンドベルの演奏や手遊びを楽しみ、愛育班員方に優しく見守られながら交流している姿にふれ、うれしく思いました。班員からは、市内の中学校三年生に赤ちゃんを抱く体験をしてもらおう「思春期ふれあい体験」をおこなったり、祖父母・親・孫の三世代が集う「愛育まつり」を開催したりして、地域に根ざした活動に取り組みされていることも伺いました。皆さまが、さまざまな課題に向き合いながら、「命の大切さ」を伝え続けていることも、大変ありがたく思います。

また、笛吹市の健康科学大学産前産後ケアセンター『ママの里』で



「どんぐりころころ」の曲に合わせて一緒に手遊び

は、父親が赤ちゃんとおふれ合うベビーマッサージ教室が開かれています。ベビーマッサージには、親子の絆を深めながら、赤ちゃんの身体や脳の発達を促す効果があるそうです。このような父親参加教室の開催を含め、山梨県内各地で、新たな子育て支援の活動にも熱心に取り組まれていることを知り、心強く感じました。

全国の愛育班員の皆さまが地域の人々に寄り添う活動に取り組まれていることに感謝いたしますとともに、皆さまのご健康とお幸せを心より願っております。

## 総裁をお迎えして

山梨県愛育連合会会長 石原まゆみ

令和7年2月12日、総裁秋篠宮皇嗣妃殿下の御視察をいただき、育成者との御懇談の場に幸運にも同席をさせていただきます。

本県の他にあまり類を見ない組織体制のもと、両輪となり、常に寄り添い、活動を支援して下さる県・保健所・市町村の代表保健師からは、地域の実情にあわせた活動・育成者としての支援内容について説明がありました。それに対して、総裁より、数々のご質問や関心を寄せていただきました。また、私自身も山梨県愛育連合会の活動や役割、趣旨、思いを語り、皆共に労いのお言葉をいただきました。

終始和やかな雰囲気の中、総裁の並々ならぬ愛育会へのお心に触れ、その慈愛に満ちたお人柄に、保健師共々大ファンとなりました。

先人より受け継ぐ尊い活動「愛育のこころ」を根幹に、班員、育成者一丸となり、なお一層活動に励み、次世代に伝え繋ぐことを誓い合う夢のようなひとときでした。



# 記念誌から学ぶ愛育班活動の意義

母子愛育会が第1回愛育村を昭和11年（1936年）に指定してから89年が経過しました。これまで、各県や市から愛育班活動の50、60周年など節目を迎えて発行された記念誌が本部の蔵書として大切に保管されています。そして、最近では70周年、80周年のお知らせが届き始め、歴史ある愛育班活動の軌跡を残すことの大切さを実感しております。

節目、節目で歴史を振り返り、記録として残す作業には時間と労力が必要です。事務局や役員の皆様の努力によって作成された記念誌は、愛育班の発足の経緯や、先人達の活躍を知る貴重な資料です。母性及び子どもの健康の保持増進のために、情熱と使命感をもって熱心に愛育班活動を守り続けてきた班員の方々の感謝の念に堪えませ



温故知新と  
いいですが、  
過去の活動か  
ら今の活動を  
見つめ直して  
みたいと思っ  
ます。

もって熱心に  
愛育班活動を  
守り続けてき  
た班員の方々  
への感謝の念  
に堪えませ  
ん。



## 子どもたちの健康づくり運動から始まった愛育班活動

「あゆみ」第2章 歴史 より引用（鯖江市愛育会 平成13年1月28日発行）  
「昭和36年、37年頃、鯖江市教育委員会会の「学校統計」では、北中山地区、河和田地区の児童の体位が、全国平均より劣っているという実態報



告があり、地区の関係者の中で話題となりました。当時、家内工業で働く母親が多かったにしても、特にそれぞれの地区の就業割合が高いとか、その他際立った理由もありませんでした。」

その結果、それぞれの地区では、児童の体位が目立って低いという報告は、将来を担う子どものものであり、非常に重要ととらえ、子ども

の健康問題を考えるため、それぞれの地区で話し合いがもたれました。その結果、健康問題は成人してからは遅い、ということが基本的な考えとなり、赤ちゃんの時から健康への取り組みが大切であること、その育て方から始める必要があるということになり、まず、区長会、学校

幼稚園、保育園と婦人会等が力を合わせて、子どもの健康づくりと体位向上に努める運動母体をつくることになりました。

昭和37年、38年にかけて、次のような（5つの）愛育会や保健会を結成しました。（以下省略）

その後、地区公民館での育児相談や体重身長測定、調理指導や栄養バランスの大切さなどを伝える活動を地区担当保健婦や栄養士と共に行ない、子どもたちの健康づくりを家族みんなで学ぶ取り組みが行われたそうです。統計データで地域の健康課題を見つけて自ら取り組みヘルスプロモーションの手本のような取り組みです。

## 現代の子どもの健康問題は？

今は飽食の時代で子どもの栄養状態など心配することはないと思われ、るかもしれませんが、①日本の女性は「やせ」が増加しており世界から見ても非常に多い、②この20年で、出生数は減少しているのに低出生体重児の割合は増加、小さく生まれた赤ちゃんは成人病になるリスクが高いというエビデンスがあります。女性はやせているのが美しいといった認識が、このような健康課題に影響している可能性があります。子ども

## 少子高齢化・核家族の中に置かれた母と子への愛育班活動

育てよう地域で愛育のこころを山梨県愛育連合会創立40周年記念誌（山梨県愛育連合会 平成17年9月3日発行）  
愛育劇「語り継ごう愛育のこころを！育てよう地域ですこやかな子らに」  
心の豊かさが失われていく、声かけはしてみただけれど、声かけ・家庭訪問より引用

(場面は、畑が宅地造成されて家ができています。地域の主婦と班員佐藤さんが立ち話で、最近越してきた赤ちゃんがいる若い人を訪ねて、愛育会を進めたいけれど、進め方が悪かったのか入ってもらえないから、もう一度行ってみようかと話して別れる…)

(場面は若い夫婦の家。これから佐藤さんが訪問予定のママとパパは、ここに住み始めてもうすぐ1年。田舎はなにかと煩わしいと、愛育会の加入のことを一問に合っています」と断った話をしていいる。なぜか、赤ちゃんはぐずぐずしており、夫婦で心配しているところに佐藤さんの訪問を受ける。)

(班員) こんにちは、この間おじゃました愛育班員の佐藤です。(略)

(ママ) すみません。うちでは入る気が全然ありませんので…。

(班員) 赤ちゃん大きくなりましたか？まだ小さいから大変だよ。賑やかになってよかったですね。

(ママ) ご覧のように太郎が生まれてなかなか出かけれないし、なんだかんだけ忙しくて…

(班員) 私、口下手なものでうまく言えないんだけど、要するに愛育会って、地域の人達が話し合いながらあー健康で楽しく暮らしていきたいですよという、人に優しい会なんです。ちょっとこれ見てもらえますか。(リーフレットを渡す) (略)

(ママ) うちじゃあちょっと興味もないし…  
(班員) 子育て支援なんかもしているんですよ。

(ママ) でもねえ…。(太郎が急に大声で泣きだす。夫は困りはて妻に太郎を渡す)

(班員) どれどれ、私にちょっと抱かせて…。(太郎を受け取る) ほらほらよしよし、どうしたのどうしたの、そんなに泣いて。こんなにびっしょり汗をかいて…。暑くて泣いているのかな、1枚脱がせてみましょうか？(頭や首の汗を拭いたり、ベストを一枚脱がせながら) まあ、かわいいことね。

(班員) あら、何か赤いぶつぶつができていますみたい。

(ママ) えっ本当ですか？  
(班員) 発疹を指摘され心配するママは、佐藤さんから観察ポイントや保健師さんへの相談を進められ安心する)

(ママ) どうもありがとうございます。本当に助かりました。

(班員) いえいえ、また、何かありましたら、いつでも私に言ってください。お手伝いさせてもらいますよ。愛育会入会のことも考えておいてね。じゃごめん下さい。

(班員退場)

(ママ) 私何か勘違いしていたみたい。(パパ) 何を？

(ママ) 人と会ったり話したりすることが煩わしいなんて思っていたけど、本当はすごい、いいことだった。今わかった、私、落ち着いたもの。

(パパ) そうだよな。ああいうおばちゃんがいる所ってあったかいよな。それにああいうおばちゃんが近くにいると、なんでも相談にのってもらえ

ると思うよ。太郎もいることだし、そうすれば僕も安心して仕事に出かけられるよ。  
(ママ) そうね。よく分からないけど、私、愛育会に入れてもらおうかな。(以下省略)

核家族に置かれた夫婦と子どもの様子と、嫌がられて、関わる難しさ。でも大切なことだからと勇気をもって訪問してみる班員さんの様子が演じられ、子育て経験者としての班員さんの赤ちゃんをみる細やかな目と大らかな存在に、母親はおばちゃん存在の温かさを知ったのです。班員さんは、働きかけた喜びを感じ、自己の存在感、幸せ感として自分に返ってくるのです。とコメントが語られています。

### 「こころの豊かさをはぐくむ」地域のつながり

平成から令和になり、ますます孤立化した育児、ワンオペ育児等で育児不安を抱える親子が増えています。



近所づきあいも希薄で、人に頼ることが苦手な若い人にとって、突然の訪問や声かけには警戒心が先に立ってしまいます。そして、専門職ではない人に相談するというのも抵抗があるかもしれません。でも劇中のママの気づき「人と会ったり話したりすることが煩わしいなんて思っていたけど、本当はすごい、いいことだ…。」今わかった、私、落ち着いたもの。」と語られたように、愛育会や班員さんを拒否していたのではなく、知らない事への防衛から来た態度なのです。

最近、行政主導で子育て支援の場が増え、愛育会の必要性を疑問視する声も聞かれますが、近所のおばちゃんとして、日常の会話から健康問題に気づいたり、何気ない話題で交流したりという「こころの豊かさ」をはぐくむことができるのは愛育班活動の大きな役割だと感じます。それは、この劇が演じられた平成16年の時より現在の方が必要性が高まっています。このシナリオのような何となく子育ての不安を感じている人を、明るい気持ちに変えることができる近所のおばちゃん、おじちゃんとしての班員さんと愛育会の存在は地域の宝です。都会では、このようなつながりをつくるのが難しい状況にありますが、誰かとなつながらこの大切さを伝え続けていきたいと思えます。

## 組織調査結果報告

- 全国16都道府県、119市町村に愛育班が存在していますが、休会中を除くと111市町村になります。埼玉県さいたま市が一番人口が多く、人口1,000人以下の小さな町・村でも4愛育班が活動を継続しています。
- 高齢化率は、超高齢化社会と定義される21%以上に2市町を除くすべての愛育班が入ります。出生数では、約94%の市町村が年間100人未満に該当し、少子化が進行し子育て支援活動の困難さが伺えます。
- 愛育班たよりを発行しているのは70班、発行回数は年1回のところが多く、毎月発行している6つの班では声かけ訪問等に活用していました。
- 40班が市町村から委託事業を受けており、こんにちは赤ちゃん訪問など声かけ訪問、子育て広場や季節のイベント、特定検診の勧奨、母子保健事業の補助、健診会場での見守りなど保健師業務との協働で活躍しています。
- 単位愛育班数は444、愛育班員数は30,069人でした。(2024/8/30日現在)

これからも、地域の実情に合わせた愛育班活動を進めていきましょう！



## 令和7年度の愛育推進部の活動計画

### (会議)

○支部長・連合会会長会議 令和7年4月21日(月) 於：母子愛育会本部

### (交流・研修)

- 1 第60回愛育班長研修会(模範愛育班指定班での実習と本部研修) 令和7年11月5日(水)～6日(木)
- 2 愛育・地域づくり活動交流会 令和7年11月5日(水)
- 3 各地の班員研修等に本会職員を派遣します。愛育推進部までお問合せ下さい。(費用は無料です)
- 4 新規の班員募集や班員育成に活用できる研修動画を公開します！(公開日未定)
- 5 研修動画配信サービス

恩賜財団母子愛育会のホームページ「会員専用動画」からアクセスできます。愛育班員全国大会の動画や班員、育成者向けの研修動画を順次公開していきます。

URL：<https://boshiaikukai.jp/> パスワードが必要です。愛育推進部までお問合せ下さい。

ここをクリック



## 物販

申込方法は、法人のHPをご覧ください。

- 愛育班員手帳2025 (特徴)「愛育班員証」「愛育班活動の基本」「ダイアリーとメモ」「住所録」等で構成されています。引き続き、愛育班活動のお供にご愛用ください。(定価) 550円(税・送料込)
- 愛育班活動紹介DVD「今日も声かけつながり合う地域」 1枚 1,100円(税込・送料別)
- 知ろう・活かそう 地区組織～コミュニティワークの実際 1冊 1,100円(税込・送料別)
- 愛育班員バッチ(ピンタイプ) 550円(税込・送料込)
- 愛育班員バッチ(キャップタイプ) 660円(税込・送料込)

お申込：恩賜財団母子愛育会HP 教材・刊行物等の申込フォーム

お問合せ：TEL 03-3473-8335



## 崇仁親王妃百合子殿下から賜った御歌

崇仁親王妃百合子殿下は今年の11月15日、101歳で人生の幕を下ろされました。妃殿下には、当会前総裁として、昭和23年4月より、平成22年9月までの63年間にわたり、本会の運営に深く心を遣われ、本会各施設のご視察と職員への励まし、各種行事へのご臨席を賜りました。

特に愛育班員全国大会には、昭和44年の第1回から毎回ご臨席をいただき、愛育班活動やその育成について、大変ご熱心に激励と、ねぎらいのお言葉をいただきました。昭和11年に第1回愛育村を指定してから、満50周年にあたる昭和61年4月23日開催の第18回大会では、「愛育班活動50周年を記念して」次のような御歌を賜りました。

「いそしみて世の母と子のしあはせを まもらむとする人はたふとし」

全国の愛育班員、育成者の皆様と共に、衷心より哀悼の意を表するとともに、ご冥福をお祈りいたします。